

2020年10月20日（火）

琉球大学公開授業

お題解決プログラム

普天間の歴史と文化

平敷 兼哉（宜野湾市立博物館 館長）

はじめに

1. キーワード：「**汝の足もとを掘れ！そこに甘き泉あり**」（ニーチェ）

→地域は宝箱のようなもの。歩いて、聞いて、発見し、原石（課題）を掘り出すアンテナを張る力を養いましょう（地域を多角的にみる）。

2. 例えば...

(1) 目に見えるもの

→例：街の様子...車道、歩道、交通量、区画整理、上下水道、消防、商店、住宅、観光地、文化財、公園、学校、環境など

(2) 見えにくいもの

→例：市民との対話から...くらし、学童、保育、交通安全、自治会活動、デイサービス、介護、防犯、環境整備、地域行事など

(3) その他にも市民からの意見や要望によってわかる課題。

■地域で暮らす人びとは、その地域への思いや愛着を持っています。人びとの思いを知るためにも、地域の成り立ち（歴史）を背景として知ることは、今後のフィールドワークにも生かすことのできる大切なことです。

1. 宜野湾市の歴史概略



- ①1671年、首里王府、
宜野湾間切設置
浦添間切...10ムラ
中城間切...2ムラ
北谷間切...1ムラ
を割り、
新設村...1ムラ
- ②間切の中心は、
宜野湾間切宜野湾村
番所（役所、
現：普天間飛行場内）
- ③宜野湾並松（ジノーン
ナンマチ）の植付け

間切図

（沖縄県立博物館・美術館所蔵）

戦前の宜野湾

戦前の宜野湾は、農業を中心とした人口13,600人余の村(1944年10月)でした。宜野湾村字宜野湾には村役場があり、普天間には沖縄県立農事試験場や中頭教育会館、中頭地方事務所等の官公庁が置かれていました。また、嘉数から普天間までの約6km間には、琉球王国時代植付けの“ジノンナンマチ(宜野湾並松)”と呼ばれる松並木があり、広く知られていました。

主な換金作物であるサトウキビは、個人あるいは共同のサトウヤー(製糖小屋)で製糖しました。1922(大正11)年に沖縄県営軽便鉄道嘉手納線が開通すると、トロコや荷馬車を利用して大山駅に集め、嘉手納製糖工場へと運んで製糖することもありました。



◆凡例

- 宜野湾並松
- 県道1号線
- 県道30号線
- 軽便鉄道
- 戦車壕
- 軽便鉄道駅
- 闘牛場
- カー(原)
- 学校
- 馬場

◆宜野湾村民の主な避難壕

① 普天満宮洞穴(普天間)	⑩ ティラガマ(嘉数)
② タキジョウガマ(野峯)	⑪ チヂフチャーガマ(清原市)
③ ターバルガマ(野峯)	⑫ マーヒヌガマ(高敷)
④ マーカーガマ(神山)	⑬ メーガーラの壕(大謝名)
⑤ ティラガマ(神山)	⑭ ハンタヌシチャーの壕(宇地泊)
⑥ クマイアブ(宜野湾)	⑮ マヤーアブ(真志喜)
⑦ 佐真下ウプガー(佐真下)	⑯ ケレンケレンガマ(喜友名)
⑧ チンガーガマ(我如古)	⑰ フトウケーブ(喜友名)
⑨ アガリイサガマ(真栄原)	⑱ ビンズルガマ(安仁屋)

※ 空中写真は1945年11月・2月撮影写真を合成した
 ※ 縮尺は若干の誤差を含む

- ① 純農村
- ② 村行政の中心地は、字宜野湾
- ③ 官公庁の設置から中頭の中心は、普天間
- ④ 宜野湾並松の国の天然記念物指定(1932年)
- ⑤ 沖縄県営軽便鉄道嘉手納線

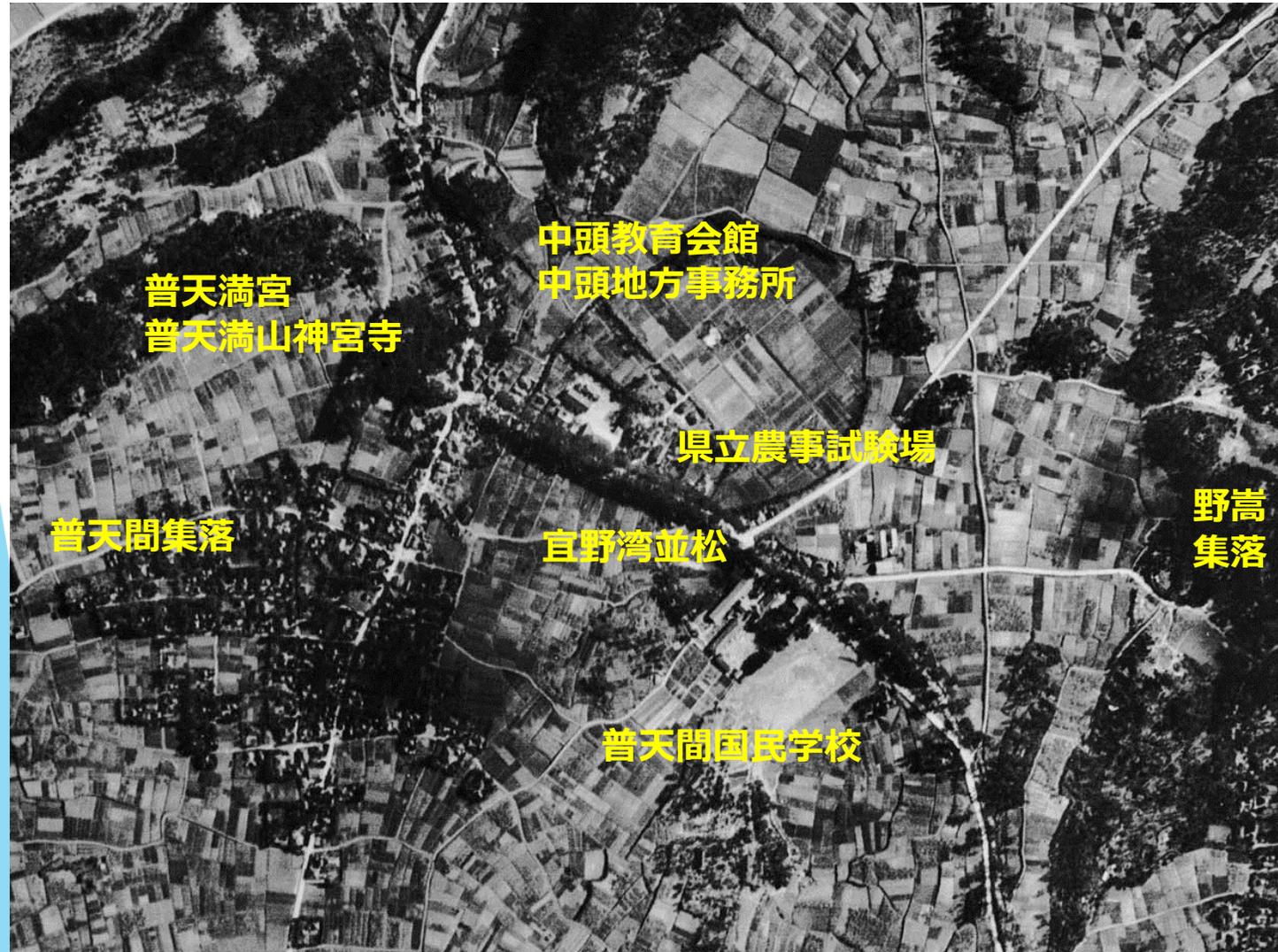
普天間の歴史



普天間

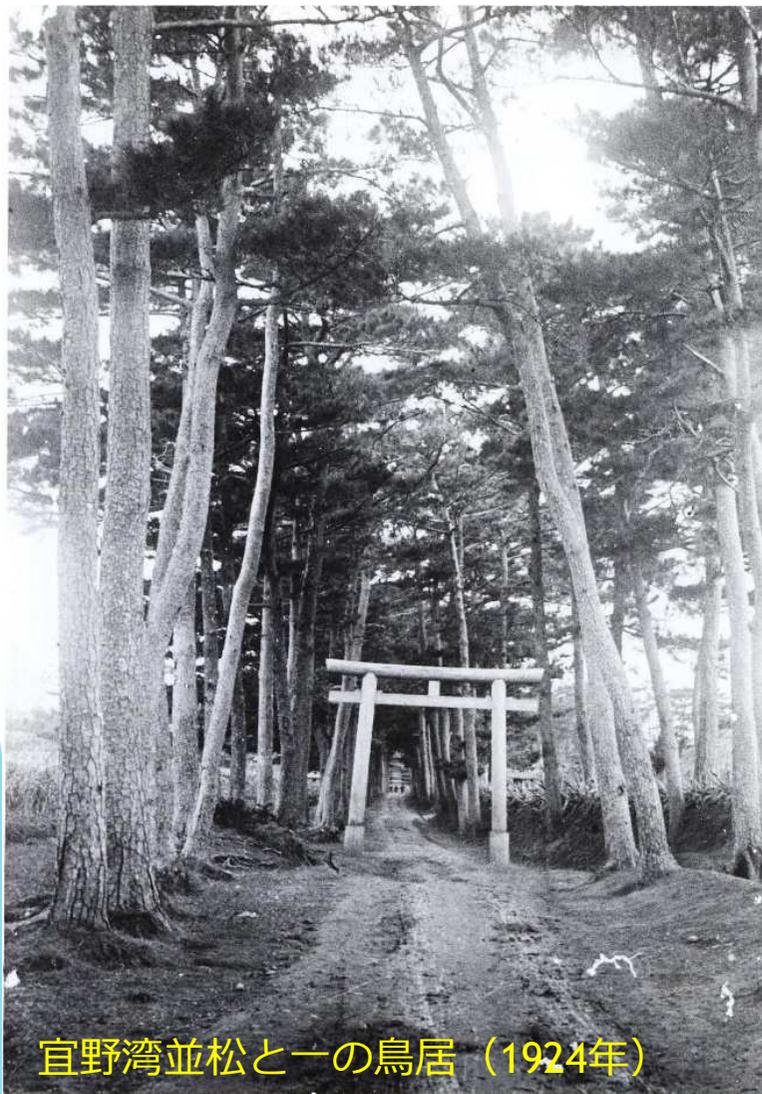
- ① 1671年の宜野湾間切
設立以前は中城間切の
ムラ
(ふてま、寺普天間村)
- ② 普天間権現の存在
(門前町)
- ③ 普天間参詣 (1644年)
琉球国王または王府
高官の普天間権現への
参拝

中頭の中心、普天間



- ① 普天間は、集落エリアと、門前町エリアに分かれる。
- ② 官公庁の設置...中頭郡役所（後に中頭地方事務所）、中頭教育会館、沖縄県立農事試験場普天間試験地
→現：普天間高校、普天間小学校
- ③ 中頭小学校（普天間神宮寺内）開校（1881～82年）
- ④ 宜野湾尋常小学校の普天間分校（1903年、1906年普天間小学校として独立）
- ⑤ 農事試験場普天間試験地
→早生多種の「沖縄100号」「比謝川1号」イモの奨励品種
→外国産の食用植物を取入れ、栽培。
樹木園（現：普天間高校内）
- ⑥ 普天満宮への参拝
奈良や大阪の寄留商人の寄進石灯籠、航海安全、武運長久

普天間の街並み



宜野湾並松と一の鳥居 (1924年)



普天満宮と並松 (1938年)



初詣 (1941年)



農事試験場 (1935年頃)



ピクニック記念 (1929年)

沖縄戦時の普天間①



左：米第96師団の司令部として使用中頭教育会館（現：普天間高校）
右：司令部周辺の様子。並木は宜野湾並松

写真2枚：沖縄県公文書館所蔵

沖縄戦時の普天間②



左：並松街道を南進する米軍

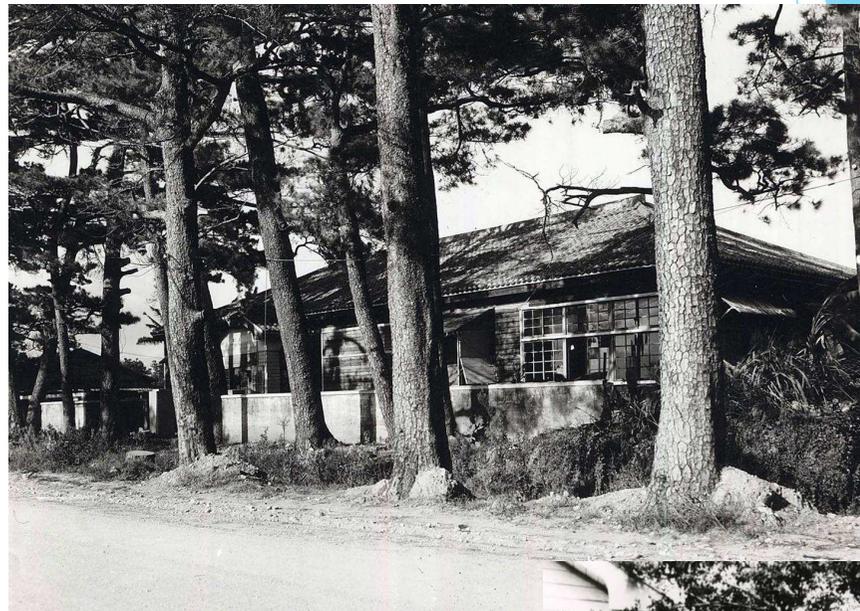
(写真：沖縄県公文書館所蔵)

右：宜野湾並松を伐採する米兵

(写真：1 フィート事務局所蔵、原画は映像)



戦後の普天間



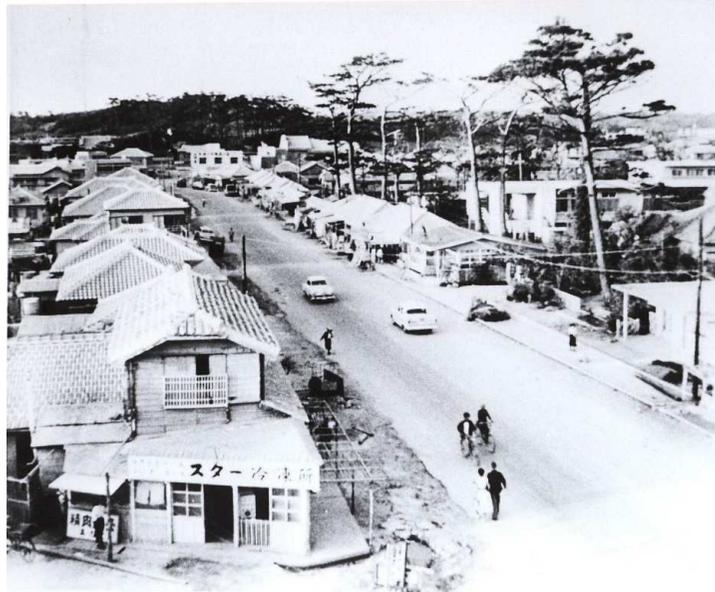
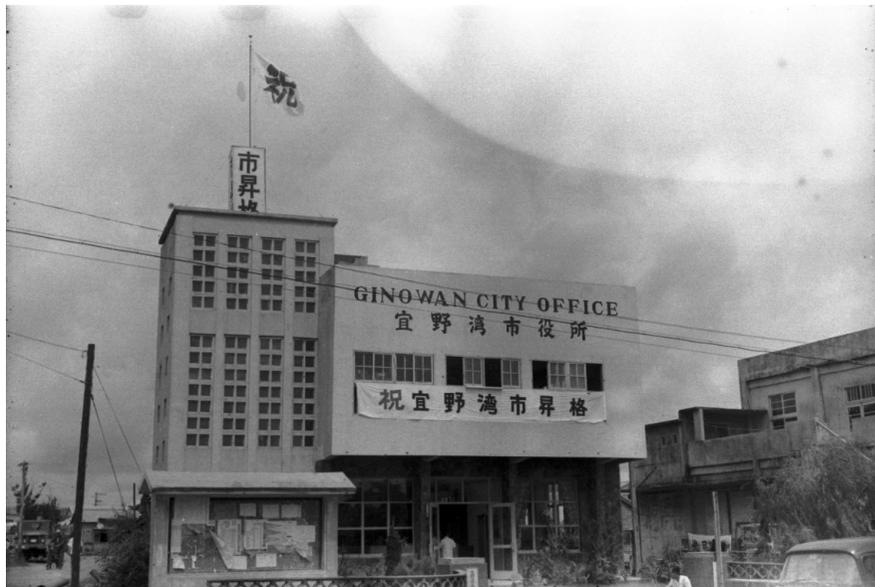
左：普天満宮前 1947（昭和22）年

右上：デイリーオキナワン社屋（現：普天間高校）、手前の松は宜野湾並松

右下：デイリーオキナワンの社員 1946（昭和21）年

※集落部分は、キャンプ瑞慶覧に接收され、門前町部分は隣接する野嵩を含めて、戦後復興の地となった。

街の発展①～役所前～



- 左：宜野湾市役所
1962（昭和37）年
- 右：普天間中央通り
1957（昭和32）年
- 下左：中部第二の都市、
普天間
1956（昭和31）年
- 下右：平和祈念像の制作
作：山田真山
(1885～1977)

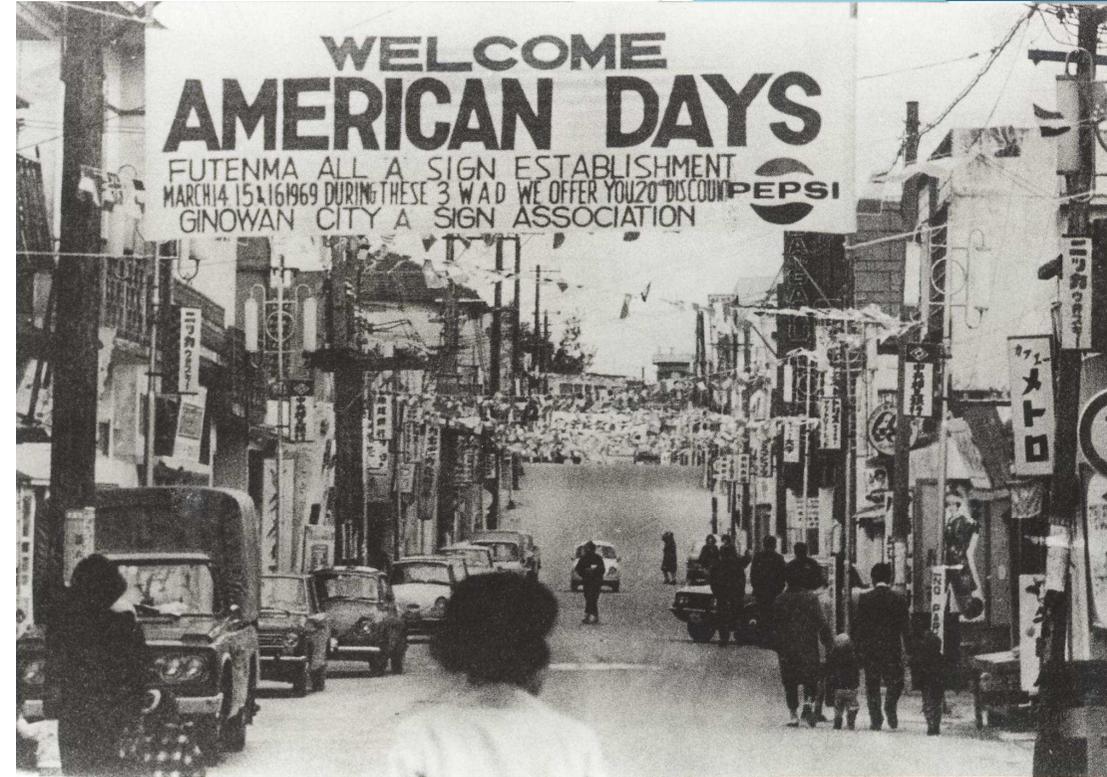


街の発展②



左：市昇格を祝って普天間総合グラウンドで行われたオートレース 1962（昭和37）年
右：東京オリンピックの聖火リレー 1964（昭和39）年、役所前

街の発展③～目抜き通り～



左：本町通り 1956（昭和31）年 日用雑貨店が建ち並び、映画館もあった。

右：すずらん通り 1969（昭和44）年 ペーデー（給料日）に掲げられた横断幕

※この他にもいくつかもの通りがあります。

街の発展④～学校～



- 左 : 普天間初等学校 1948 (昭和23) 年
右上 : 野嵩中学校のかやぶき校舎 1952 (昭和27) 年
1960 (昭和35) 年、喜友名へ移転 → 普天間中学校
右下 : 野嵩高等学校 1953 (昭和28) 年
1958 (昭和33) 年に学校名を「普天間高等学校」に改称



まとめ

1. 普天間は、琉球王国時代からの門前町として栄えた地域。
2. 戦前は官公庁があり、中部の中心的役割を担っていた。
3. 戦後は、集落部分は基地として接收された。門前町部分は隣接する野嵩を含めて復興の地となり、その後、市役所を中心に市街地化が進み、中部第2の都市となった。
4. そして現在は？皆さんの目に、どのように映っていますか？
→さあ、実際に歩いて自分の目で確かめてみましょう！

